慧光

金光寺寺報
第２０３号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

▲何の花だと思いますか！リンゴの花です　（馬原　隆氏家にて撮影）

今月法語カレンダーのことば

かの如来の本願力を観ずるに
凡愚遇うて空しく過ぐるものなし

今月のことばは、親鸞聖人がお造りになった『入出二門偈頌』という偈頌（うた）の一節で、もともと、

かの如来の本願力を観ずるに、凡愚、遇うて空しく過ぐるものなし。一心専念すれば、すみやかに真実功徳の大宝海を満足せしむ。

と続いていくご文の前半のお言葉です。

浄土真宗の教えを理解する上で次のようなことを明らかにしようとされたのだと思われます。一つには、阿弥陀仏の救済を受けるのは「煩悩具足の凡夫」である私たちだということ。二つには、宝の海のようなすばらしい功徳を満足させていただくのは、浄土に往生してからではなく、「一心にもっぱら阿弥陀仏の名を称えるとき」、すなわち今この土においてのことであるということ。三つには、その時に得る利益は、私たち凡夫の自力の善根によって得る「不実の功徳」ではなく、阿弥陀仏の智慧と慈悲が満足された「真実の功徳」であるということです。もちろんこれは、現生においてさとりを開くということではありません。称える名号そのものに、阿弥陀仏の智慧と慈悲の徳がこめられていて、私たち衆生がその名号をはからいをまじえずに受け入れ、口に称えるところに、仏となるべき因がまどかに満たされるということを明らかにされているのです。

「本願力を観ずる」ということは「阿弥陀さまに遇う」ことであり、今すでに阿弥陀さまに出遇っているから、けっして人生を空しく過ごすことはない、とおっしゃっているのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

第２０３号　慧　光　２０１８（平成３０）年　５月

仏教用語豆辞典

呂律（ろれつ）

幼児や酔っぱらいなどが、舌が回らず、言葉がはっきりしないことを「呂律が回らない」などといいますね。

仏教では、お経に節をつけて唱えることがよくあります。これを声明（しょうみょう）とか梵唄（ぼんばい）といいます。現代風には仏教音楽でしょうか。

この声明には、呂（りょ）旋法、律（りつ）旋法、中曲旋法の三種類の音階があります。そこから、呂律は声明の調子、音の調子、旋律という意味になりました。

京都・大原三千院には、声明にちなんで、呂川・律川と名づけられた川が流れています。

声明は日本の音楽に大きな影響を与えています。平家琵琶、謡曲、浄瑠璃、浪花節、ご詠歌、各地の音頭、盆踊りなど、日本人の音楽の底辺には声明があるといわれ、カラオケでよく歌われる演歌も、その影響を受けているほどです。

呂律は「りょりつ」から「ろれつ」に変化し、言葉の調子という意味になったようです。

マイクを握ったら、あまり酔わないで、呂律正しく歌ってくださいよ。

（本願寺出版社発行
辻本順著敬
「仏教用語豆辞典一〇〇　ＰＡＲＴⅡ」から）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　５月
１９日（土）　終　日
２４日（木）　終　日

◎　６月
１日（金）～　２日（土）
２３日（土）～２４日（日）

◎　７月
２２日（日）　終　日

４月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１８年　４月　１日　満８７歳
揚　野口　徹　様
２０１８年　４月　８日　満８８歳
渡瀬　西田　アキエ　様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
５月７日現在　アクセス数　８１，９０４人

住職ひとりごと

先月中旬ごろ、丁子集落の馬原隆さんが朝お出でになりました。「うちにリンゴの木があり、きれいな花が咲くが。今、六分咲きくらい、よかったら写真を撮りに来んの」とお声をかけていただきました。早速、見に行くときれいな花が咲いていました。後日、カメラを手に再び馬原家を訪れ写真を撮り今月号の表紙に使わせていただきました。如何でしたか？▼花を見に行ったときに、「食べられるリンゴができるのですか」とたずねると、おいしいリンゴが採れるとのことでした。今度は真っ赤（？）に実ったリンゴの実を撮影して表紙に掲載したいなと思っています。ところで、鞍岡で東北地方で採れるようなリンゴの栽培ができることに驚きを覚えました。▼表紙写真下「今月法語カレンダーのことば」の漢字に毎月ルビ（ふりがな）をふっています。しかし、今月は文字数が多く二行にしたので、行間が狭くなりました。ルビをふると文字かぶりするため、ルビをふることができませでした。下の文章にルビがふってあります。そちらを参照してください。

（住職　松井卓郎）